

第 8 回市民参画部会 要点録

日時：平成 29 年 8 月 31 日（木）18：00～20：00

場所：日野市役所 504 会議室

出席委員：小倉委員 東京農工大学名誉教授

鶴田委員

濱田委員

井上委員

森川委員

片山委員

山本修平

富田裕紀 都市計画課

高木秀樹 緑と清流課

藤田尚貴 緑と清流課

大日向均 生涯学習課

白石千紘 地域戦略室

小島寿美江 健康課

※敬称略

次第

- 1.開会・あいさつ
- 2.ワークショップ（資料 1・参考資料 1）
- 3.その他

配付資料

資料 1：第 8 回市民参画部会ワークショップ 市民主体の重点プロジェクト検討（2）

資料 2：第 7 回市民参画部会 要点録

ワークショップの概要

検討テーマ

第7回市民参画部会に引き続き、基本方針として検討されている3つの柱ごとに市民主体で実行できる重点プロジェクトの検討を行う。

内容

第7回市民参画部会と同様の3班に分かれてワークショップを行う。

市民への生物多様性の普及啓発を高めるための取組みとして検討する。

到達目標と作業スケジュールの検討まで進めることをワークショップの目標とするが、前回検討した内容を整理・改善する作業も合わせて実施する。


A 班 基本方針：人々の関心を高める

B 班 基本方針：人と自然の関わりをつくる

C 班 基本方針：日野らしい自然を守り育てる


ワークショップの結果

A 班 基本方針：人々の関心を高める

自然にふれあう原体験の推進		
第 7 回市民参画部会後のとりまとめ状況		幼少期に、自然や生きものとのふれあいによる自然体験を促し、雑木林や用水などの日野らしい身近な自然を学ぶために、生物多様性の恵みを子供向けにわかりやすく解説する冊子を作成します。自然の原体験が豊富で、生物多様性を体で理解する“感覚”を備えた野生児を育てます。
作業工程	1 年目	<ul style="list-style-type: none"> 成果物のコンセプト決定 大学生など若い人と協力！
	2 年目	<ul style="list-style-type: none"> 資料・原稿づくり プログラム内容の決定→実験
	3 年目	<ul style="list-style-type: none"> 組み立て作業 分野は幅広く 感覚：五感→体で体験・理解 <p>★作った冊子等を活用してソフト面とハード面の目標を達成する</p>
目標		<p><ソフト面>2020 年度末完成！</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもだけでなく親の教育も必要 冊子（入口）→ネット・サイト 冊子だけでなく映像なども活用！ SNS・ネットの活用！→YouTube <p><ハード面>2021 年度から本格運営</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験プログラム <p>→季節に合ったプログラムを！1 回限りで終わらせない！</p>
ワークショップの成果		

冊子をつくるといったソフト面の取組み以外にも、体験プログラムの検討といったハード面の目標も必要であるとの意見が挙げられた。特に体験プログラムは、月ごとに内容を変えて日野らしい生物多様性を学ぶ体験にする、といった具体的な提案が得られた。


B 班 基本方針：人と自然の関わりをつくる

市民でできる生きもの調査マニュアルの作成		
第 7 回市民参画部会 後のとりまとめ状況	市民の目で広域的に日野市の自然や生物多様性を把握するために、誰でもできる生きもの調査マニュアルを作成します。環境ごとに生きものの状況を把握できる内容にし、子どもでも使えるツールとします。最終的には学校の行事としても利用できる調査マニュアルを目指します。	
内容	<p><調査マニュアルの特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 継続して使えるツール 地域ごとのマップ <ul style="list-style-type: none"> →環境と生きもののつながりがわかる（例：河川と丘陵の違い） <p><調べる生きもの></p> <ul style="list-style-type: none"> 大きい生きもの 子どもが興味をもつ生きもの 日野らしい生きもの（カワセミなど） <p><調査の実施について></p> <ul style="list-style-type: none"> 小学生 3 年生ぐらいが対象 夏休みに取組める内容 	
作業工程	1 年目	<ul style="list-style-type: none"> 調査対象となる生きもの候補の整理 <ul style="list-style-type: none"> →河川、丘陵、住宅地ごとに整理する
	2 年目	<ul style="list-style-type: none"> イベントとして生きもの調査を行ってみる <ul style="list-style-type: none"> →調査単独での実施は難しいため、他のイベントに抱き合わせて実施 学校の先生に参加してもらう <ul style="list-style-type: none"> →教育の視点でコメントをもらう
	3 年目	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事として実施する <ul style="list-style-type: none"> →学校の先生が講師として教える
目標		<ul style="list-style-type: none"> 学校の取組みとして実施されている
ワークショップ の成果		

継続して取組める活動とするためには、学校との連携が必要であるとの意見が挙げられた。マニュアルの検討段階から学校の先生に参加を仰ぎ、将来的には学校の先生が講師となり、使うことのできるマニュアルづくりを行うという提案が得られた。

C 班 基本方針：日野らしい自然を守り育てる

多くの生きものが集まるまちづくり		
第 7 回市民参画部会 後のとりまとめ状況		<p>蝶の好む蜜源植物や、幼虫の餌となる食草を配置したバタフライガーデンを公園に設置し、市民の力を借りて維持管理作業を実施します。蝶の生態や生きものと共生するまちづくりについて市民の関心を高め、さらに自宅の庭にも蝶を呼び込む取組みとして展開することで、家庭で出来る生物多様性向上の取組みを推進します。</p>
内容		<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 協力団体が必要 長続きさせるために、負担にならないように →市が主体だと長続きしない 子どもだけでなく大人も巻き込む →子供が来れば大人も来る 特定外来生物を見極める目が必要 →マニュアルづくり <p><手法></p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもがいなくなった公園を選ぶ →近隣の住民に協力してもらう →近隣（まち）の活性化を狙うことができる 公園のリニューアル →「特色ある公園づくり」 モデルとなる場所を決める 既にやっているところから始めてみる 市、市民などそれぞれの得意なことを活かす 多摩動物公園にも協力してもらう 園芸種の取り扱い →少しずつ在来種を増やす
作業工程	1 年目	<p><どこで？></p> <ul style="list-style-type: none"> 人が来やすい、目につきやすい場所 子どもが減った住宅地の公園 ・カワセミハウスの敷地（子供が集まる） 企業緑地（イオン、富士電機など） <p><どんな場所・環境にする？何を呼ぶ？誘う？></p> <ul style="list-style-type: none"> 事例を研究する 都内の他事例を参考にする 手伝い・体験しに行く 何を植えるか決める
	2 年目	<p><植えるものをどうやって用意するか？></p> <ul style="list-style-type: none"> タネを実際に採りに行く 子どもと一緒にタネをまいてみる
	3 年目	<p><短期目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年後にはどこか1カ所で取組みができている

<p>目標</p>	<p><長期目標></p> <ul style="list-style-type: none"> • 公共の場から始めて、一般家庭にも活動を広める
<p>ワークショップ の成果</p>	

3 年目にはどこか1ヵ所の公共の場で取組みを実践し、その後は一般家庭に活動を広めるといった、短期と長期に分けた目標設定が意見として挙げられた。活動を通じて地域や様々な主体の連携をつくり、まちの活性化を狙うことや、特色ある公園づくりを行うといった提案が得られた。